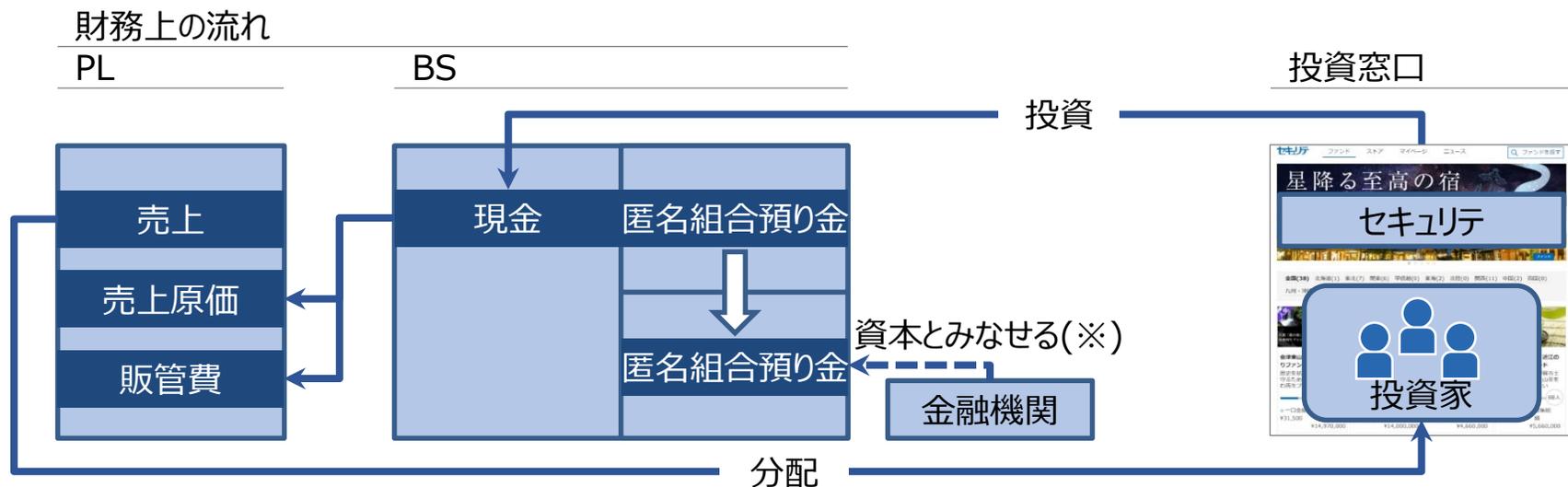


# サステナビリティ投資商品の充実に向けたダイアログ (第3回)

ミュージックセキュリティーズ株式会社  
代表取締役 小松真実

# 当社の投資モデル：匿名組合契約（TK）を活用



契約形態	匿名組合契約（金融商品取引法等）
会計処理	負債の部 匿名組合預り金として計上（※）
分配原資	特定事業の売上の一部
運用期間	3-5年程度（3ヵ月～10年間の事例もあり）
調達金額	数百万円～3億円
1口金額	個人：1万円～5万円程度 法人：100万円程度～
資金用途	材料調達、販管費、設備調達 等

※運用期間を5年超、一括償還等の条件により、資本性借入金に

IDBレポート：  
<https://publications.iadb.org/en/empathy-driven-funding-new-frontier-financing-small-businesses>

ADBレポート：  
<https://www.adb.org/publications/crowdfunding-music-securities-new-approach-impact-investing>

# 当社の投資モデル：ブレンデッド・ファイナンス

## 広島県がん検診推進SIBファンド

### ➤ 銀行融資 + 当社ファンド（個人投資家） + 当社ファンド（法人投資家） 総額15,960千円



- 必ず返済しなくてはならない資金
- 自治体からの報酬で受け取る可能性の高い部分を充当

- 元本返済義務のない資金
- 自治体からの報酬でローン返済分を抜いた部分から、元本プラス5%まで優先的に分配される優先部分

- 元本返済義務のない資金
- 自治体からの報酬で、個人投資家に元本プラス5%まで分配した後、分配される劣後部分

## 八木澤商店しょうゆ醸造ファンド

### ➤ 【セキユリテ被災地応援ファンド】 当社ファンド（個人投資家） + 寄附 総額1億円



- 元本返済義務のない資金
- 投資対象事業の一定割合が分配される

- 返済・分配する必要のない資金
- ソーシャルインパクトを社会へ返す

# 1. 個人投資家がどのような観点から投資をしているのか。

## 分野・関心について

- 一次産業、食品製造・酒類が比較的投資家の関心を得やすいと感じています。
- 特典が送られてくるものは、特に人気があります。

例) 同じあか牛のファンドでも、ものがもらえるファンドと、クーポン券のファンドで差がありました。事業計画償還率を年率換算した場合、クーポン券のファンドの方が高くなるが、投資家の関心は、ものがもらえるファンドの方が良い結果となりました。

<https://www.securite.jp/fund/detail/8265> (ものがもらえるファンド)

<https://www.securite.jp/fund/detail/8113> (クーポン券のファンド)

- 被災地応援ファンドは、新規会員の登録も多く、総じて関心が高いです。  
(東日本大震災、熊本地震)
- 能登半島地震が発生した後、災害対応車のファンドへの関心が高まった事例がありました。  
<https://www.securite.jp/fund/detail/8126> (23年：74口→24年：239口)

## 2. 関心を持っている個人投資家はどのような層なのか。

### 投資経験について

- 無しが4割程度。
- 経験ありの中では、国内株式や投資信託が、他の取引の倍程度高い。

### 年齢

- 40、50代が中心の年齢層となります。概ね、日本の人口分布に近いです。

### 地域性

- 地域のスポーツチームや、特典が事業者の現地で利用できるもの等（食事券や宿泊券）の場合、その地方の出資者が比較的多くなりやすい。
- 地域に特化しないファンドについては、全国的に分散するが、東京の会員は人口比で見ても割合が高い。

### 会員の重視していること結果

- 投資家適合性アンケートの「当社のファンドに出資する目的（重視すること）をお教えてください。」を集計しました。
- 社会貢献性 > 収益性 > 安全性の順で、会員が重視しているという結果でした。

### 3. 今のサステナビリティ投資商品に足りないのは、どのような観点になるか。

- 投資家に対しては、なぜサステナビリティ投資が必要なのかという、情報提供がもっと必要だと思います。例えば、環境というテーマはわかりやすいですが、もちろんそれ以外の社会的課題も山積していますので、課題の共有をすべきかと思います。前述の、震災があった際に、関連の投資が増えるということがありました。実際に起こる前に、投資家が認識して投資していただくことができているならば、非常時に備えることもできると考えます。
- それと関連して、投資した資金が活かされているということを実感していただくことが大事かと思います。通常の投資信託など、とても重要な金融手法ではありますが、例えば2種業による事業型ファンドは、非上場企業など現状のサステナビリティ投資商品ではなかなか資金が行き渡らない現状があるかと思います。さまざまな金融手法を組み合わせることが、重要かと思います。

## 4. 更に個人投資家への投資機会を増やす、という観点から他の業態や行政に対して期待することは何か。

- 税制面での優遇が必要だと考えています。特に、第二種金融商品取引業者による、事業型ファンドは、独自のサステナビリティ投資商品の開発ができるのですが、匿名組合出資となると、他の有価証券との損益通算ができないなど、税制上不利な金融商品となります。せめて、他の金融商品と同等の規制であるべきと、考えております。
- 金融事業者としての規制は明確にしつつも、金融を通じて世の中を良くしたいという思いのある金融事業者を大事にして欲しいです。投資商品についても、何らかの基準に満たないからサステナビリティじゃないといったような、狭い価値観で排除しない方が世の中、一步一步ですが、良くなると思います。多様な金融商品が世に出て、あらゆる課題が解決されることが大切だと思います。